

朝日新聞 時事ワークシート

天声人語 読み解き

朝日新聞の人気コラム「天声人語」を題材に、時事や一般教養、国語の分野から出題します。

- 次の「天声人語」（2020年7月11日付）を読んで、後の問いに答えなさい。

暑気払いに秋の話の一つ。作家の三浦哲郎が、秋の里山に友人と分け入り、マツタケを採ったときのことを書いている。ビールの肴にするべく、すぐにたき火で丸焼きにし、指でむしって食べたというから豪勢だ。

夕方、帰りの汽車に乗ると、aどこからともなくマツタケの香りがする。手はよく洗ったし、不思議に思ったが、出どころは自分たちの耳だった。焼けたマツタケをむしるときに汁にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいたという（「耳たぶの秋」）。

うらやましくなるのは、いまの日本におけるマツタケの縁遠さゆえである。それが**b**さらに遠くなりそうな記事がきのうの朝刊にあった。国際自然保護連合がマツタケを絶滅危惧種のリストに載せたという。

理由は採りすぎかと思いきや、そうではなく「健全な松林が減っているため」との専門家の談話があった。食べるのを控える必要はないと言われても、安心する人は少ないだろう。「我が家ではとくに絶滅危惧種」。そんなご同輩もおられるか。

「人新世」という言葉がある。人類の活動が地球環境を大きく変えてきたことを表現するため、新たに設けられた時代区分である。ホモ・サピエンスは無数の種を絶滅させてきた罪深い動物であり、そのペースは近年速度を増している。

絶滅危惧種のニュースが食卓を直撃することが目立ってきた。マツタケの前には、ニホンウナギにクロマグロ。c「〇〇よ、おまえもか」は、いったいどこまで増えるのだろうか。

1 次の意味や説明を表す語句を本文中から探して書きなさい。

- ① 正常に機能して異常がないこと
- ② 直接当たること

{ }

2 本文中の下線部 a、b、c について、次の問いに最も適切な答えを①～④から一つずつ選びなさい。

(1) aどこからともなくマツタケの香りがする理由について説明したものは、どれですか。

- ① 山でマツタケを採って持ち帰る人が電車に乗っていたから
- ② マツタケをむしった指先を冷やすため、何度も耳たぶをつまんだから
- ③ 手はきれいに洗ったが、焼いたときの煙が耳などに残っていたから
- ④ 山の中で手をふくものがなく、耳にマツタケの汁をなすりつけたから

{ }

(2) bさらに遠くなりそうな記事の内容を説明したものとあてはまらないものは、どれですか。

- ① 国際自然保護連合がマツタケを絶滅危惧種のリストに載せた
- ② マツタケの採りすぎは、絶滅危惧種のリストに載せられた理由ではない
- ③ 健全な松林が減ったため、マツタケもすっかり減ってしまった
- ④ マツタケは絶滅危惧種のリストに載せられたので、食べるのは控えるべきだ

{ }

(3) c「〇〇よ、おまえもか」に込められた筆者の思いを説明したものは、どれですか。

- ① おいしい物が食べられなくなり、これまでの行動を後悔している
- ② 絶滅危惧種の食材が増えても、食卓への影響は少ないだろう
- ③ 食材の中に絶滅危惧種が増えて、気軽に食べられなくなり残念だ
- ④ 人類の活動による種の絶滅は深刻で、食べられる物がなくなり心配だ

{ }

3 このコラムのタイトルを10字以内でつけなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

朝日新聞 時事ワークシート

天声人語 読み解き

解答・解説

- 次の「天声人語」（2020年7月11日付）を読んで、後の問いに答えなさい。

暑気払いに秋の話の一つ。作家の三浦哲郎が、秋の里山に友人と分け入り、マツタケを採ったときのことを書いている。ビールの肴にするべく、すぐにたき火で丸焼きにし、指でむしって食べたというから豪勢だ。

夕方、帰りの汽車に乗ると、aどこからともなくマツタケの香りがする。手はよく洗ったし、不思議に思ったが、出どころは自分たちの耳だった。焼けたマツタケをむしるときに汁にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいたという（「耳たぶの秋」）。

うらやましくなるのは、いまの日本におけるマツタケの縁遠さゆえである。それが**bさらに遠くなりそうな記事**がきのうの朝刊にあった。国際自然保護連合がマツタケを絶滅危惧種のリストに載せたという。

理由は採りすぎかと思いきや、そうではなく「健全な松林が減っているため」との専門家の談話があった。食べるのを控える必要はないと言われても、安心する人は少ないだろう。「我が家ではとくに絶滅危惧種」。そんなご同輩もおられるか。

「人新世」という言葉がある。人類の活動が地球環境を大きく変えてきたことを表現するため、新たに設けられた時代区分である。ホモ・サピエンスは無数の種を絶滅させてきた罪深い動物であり、そのペースは近年速度を増している。

絶滅危惧種のニュースが食卓を直撃することが目立ってきた。マツタケの前には、ニホンウナギにクロマグロ。c「〇〇よ、おまえもか」は、いったいどこまで増えるのだろうか。

- 1 次の意味や説明を表す語句を本文中から探して書きなさい。

- ① 正常に機能して異常がないこと
② 直接当たること

健全
直撃

- 2 本文中の下線部 a、b、c について、次の問いに最も適切な答えを①～④から一つずつ選びなさい。

(1) aどこからともなくマツタケの香りがする理由について説明したものは、どれですか。

- ② マツタケをむしった指先を冷やすため、何度も耳たぶをつまんだから

第1段落から、「作家の三浦哲郎」らが山でマツタケを採り、その場で焼いて食べたことがわかる。手をよく洗ったのにマツタケの香りがしたのは、「焼けたマツタケをむしるときに汁にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいた」から。熱くなった指を冷まそうと耳たぶをつまんだため、マツタケの香りが耳に移ったのである。

(2) bさらに遠くなりそうな記事の内容を説明したものとしてあてはまらないものは、どれですか。

- ④ マツタケは絶滅危惧種のリストに載せられたので、食べるのは控えるべきだ

第3、4段落の内容から考える。第3段落からは、「国際自然保護連合がマツタケを絶滅危惧種のリストに載せた」ことがわかる。第4段落からは、その理由は「採りすぎ」ではなく、「健全な松林が減っているため」であることがわかる。また、「食べるのを控える必要はないと言われても」と述べられていることにも注目する。

(3) c「〇〇よ、おまえもか」に込められた筆者の思いを説明したものは、どれですか。

- ③ 食材の中に絶滅危惧種が増えて、気軽に食べられなくなり残念だ

最終段落から、ニホンウナギやクロマグロがすでに絶滅危惧種となり、家庭で食べる機会が減っていることを読み解く。筆者は、マツタケも同様に食卓で目にするのが減ると考えているのである。カエサル^{カエサル}の最期の言葉と言われる「ブルーアスよ、おまえもか」を踏まえ、「〇〇よ、おまえもか」という表現に、絶滅危惧種の食材が増える無念さを込めていることも押さえておく。

- 3 このコラムのタイトルを10字以内でつけなさい。

(例) 絶滅危惧の味

このほか、「絶滅危惧種のマツタケ」や「絶滅危惧と食卓」など。「絶滅危惧」、「マツタケ」、「食卓」といった本文中のキーワードを参考にすると、わかりやすいタイトルになる。

暑気払いに秋の話の一つ。作家の三浦哲郎が、秋の里山に友人と分け入り、マツタケを採ったときのことを書いている。ピールの肴にするべく、すぐにたき火で丸焼きにし、指でむしった。食べたというから豪勢だ▼夕方、帰りの汽車に乗ると、どこからともなくマツタケの香りがする。手はよく洗ったし、不思議に思ったが、出どころは自分たちの耳だった。焼けたマツタケをむしるときに汁にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいたという。「耳たぶの秋」▼うらやましくなるのは、いまの日本におけるマツタケの縁遠さゆえである。それがさらに遠くなりそうな記事がきのこの朝刊にあった。国際自然保護連合がマツタケを絶滅危惧種のリストに載せたという▼理由は採りすぎかと思いきや、そうではなく「健全な松林が減っているため」との専門家の談話があった。食べるのを控える必要はないと言われても、安心する人は少ないだろう。「我が家ではとくに絶滅危惧種」。そんなご同輩もおられるか▼「人新世」という言葉がある。人類の活動が地球環境を大きく変えてきたことを表現するため、新たに設けられた時代区分である。ホモ・サピエンスは無数の種を絶滅させてきた罪深い動物であり、そのペースは近年速度を増している▼絶滅危惧種のニュースが食卓を直撃することが目立ってきた。マツタケの前には、ニホンウナギにクロマグロ。「〇〇よ、おまえもか」は、いったいどこまで増えるのだろうか。